

(別表1)

事業継続力強化支援計画

事業継続力強化支援事業の目標

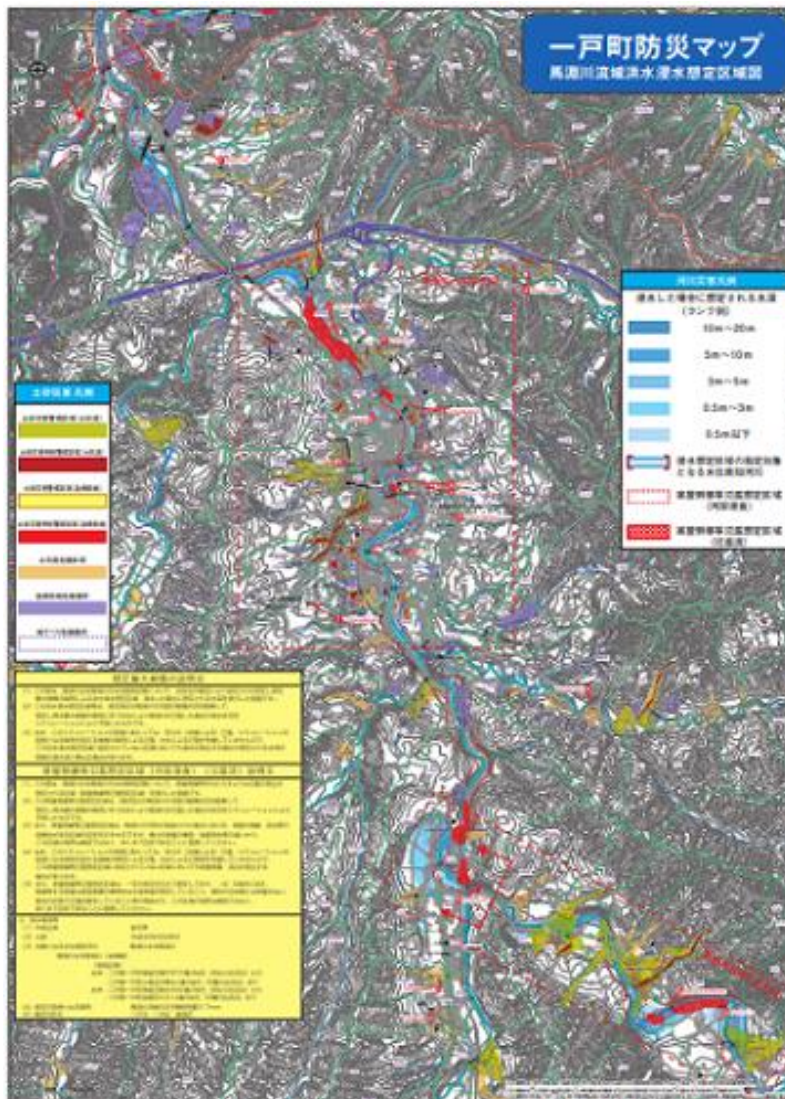
I 現状

(1) 地域の災害等リスク

一戸町は、岩手県の内陸北部に位置し、総面積 300.03 km²のうち山林・原野が 61%を占める高原の町である。北上山地と奥羽山脈に囲まれ、南西部にある標高 1,018m の西岳を頂点に、北に丘陵地が続いている。

町の交通体系は、主要道路として町の南北に国道 4 号のほか、県道 274 号線や県道 5 号線、県道 210 号線等が通っている。町中心部から盛岡市まで約 70 km、東北新幹線の停車駅のある二戸市へは約 10 km の距離である。また、東北縦貫自動車道八戸線が、町の北部を東西に横断し、町中心部から約 5 km のところに一戸 IC、更には、IGR いわて銀河鉄道一戸駅があることから、近隣市町村へのアクセスは比較的容易である。

当町では自然的条件、社会的条件及び過去の災害発生状況から「一戸町防災マップ（ハザードマップ）」を作成し、次のような災害の発生を想定している。



【洪水：ハザードマップ】

当町の中央部から北部にかけて馬淵川が南北に流れ、その流域に沿うように中心市街地が続いている。当町のハザードマップによると、会員事業者、特に小売業事業者及びサービス業事業者が立地する中心市街地北部（向町地区から本町地区）では 0.5m～3m の浸水、特に馬淵川沿いでは、最大で 3m～5m 未満の浸水が予想されている。

【土砂災害：ハザードマップ】

当町のハザードマップによると、茂谷山がある山沿いの大川鉢地区（一戸町役場周辺）は、土石流警戒区域があり、土砂災害が生じる恐れがあるエリアとなっており、小売業や製造業等が点在している。

【地震：J-SHIS】

当町に影響を及ぼす恐れのある地震として、内陸直下型地震については折爪断層地震及び花輪東断層帯地震を想定し、海溝型地震については平成 23 年東北地方太平洋沖地震や過去の最大クラスの地震を想定している。

また、地震ハザードステーションの防災地図（J-SHIS Map）によると、当会が立地する北部では震度 5 弱以上の地震が今後 30 年間で 64.0% 以上の確率で発生するとされている。

【その他】

当町の過去の災害の発生は、台風による被害、気象条件（異常気象）による被害があり、平成 23 年 9 月の台風 15 号による大雨洪水で、建物全壊 1 戸、建物半壊 3 戸、床上浸水 28 戸、床下浸水 17 戸の被害を受けた。

また、令和 4 年 8 月に発生した集中豪雨では、人的被害 1 名（死亡）、建物全壊 1 戸、土砂流入 1 戸、床上浸水 17 戸、床下浸水 32 戸、国道 4 号が一時的に通行止めになる等、大きな被害を受けている。

【感染症】

新型インフルエンザは、10 年から 40 年の周期で出現し、世界的に大きな流行を繰り返している。また、新型コロナウイルス感染症発生時のように国民の大部分が免疫を獲得しておらず、全国的かつ急速なまん延により、当町においても多くの町民の生命及び健康に重大な影響を与える恐れがある。

（2）商工業者の状況

- ・ 商工業者等数 463 者
- ・ 小規模事業者数 387 者

【内訳】

業種	商工業者数	小規模事業者数	事業所の立地状況
建設業	49	45	町内に広く分散している。

製造業	38	26	町内に広く分散している。
卸・小売業	173	139	町内に広く分散している。
飲食・宿泊業	31	25	飲食業は北部の一戸地区、南部の奥中山地区に多い。 宿泊業は南部に1者のみ。
サービス業・その他	172	152	町内に広く分散している。
合 計	463	387	

(資料：総務省・経済産業省「令和元年経済センサス」)

(3) これまでの取組み

1) 当町の取組み

①地域防災計画の策定及び防災訓練の実施

一戸町地域防災計画は、町土並びに町民の生命、身体及び財産を災害から保護するため、災害対策基本法（昭和36年法律第223号）に基づき、町防災会議が作成する計画で、岩手県、町、指定地方行政機関、指定公共機関、指定地方公共機関等の各防災関係機関がそれぞれ全機能を有効に発揮し、相互協力して防災の万全を期するために必要な災害予防、災害応急対策及び災害復旧・復興に関する事項を策定するものである。また、毎年度防災訓練を行うとともに、自主防災組織が行う防災訓練への支援も行っている。

②防災、感染症対策備品の備蓄

一戸町地域防災計画に基づき、町は、災害発生直後から飲料水、食料、生活必需品、感染症対策備品等の物資の流通が確保されるまでの間、被災者の生活を支えるため、必要な物資の備蓄を行うとともに、住民及び事業所における物資の備蓄を促進している。

③一戸町新型インフルエンザ等対策行動計画の策定

新型インフルエンザ等対策特別措置法及び感染症法に基づき、新型インフルエンザ等の発生に備え、町全体の態勢を整備するため、一戸町新型インフルエンザ等対策行動計画の策定を行っている。感染拡大を可能な限り抑制し、町民の生命及び健康を保護することと町民生活及び地域経済に及ぼす影響が最少となるようにすることを目的としている。

2) 当会の取組み

①事業者BCPに関する国の施策の周知

小規模事業者に対して、国が発行した「事業継続力強化計画認定制度のご案内」のリーフレット等の関係資料を小規模事業者に配付することで、BCPの必要性や施策活用に関する情報発信を行っている。

②小規模事業者の事業継続力強化計画の策定・申請支援

小規模事業者が策定した防災・減災の事前対策に関する計画を経済産業大臣が「事業継続力強化計画」として認定する制度で、認定を受けた小規模事業者は、税制措置や金融支援、補助金の加算などの支援策が受けられる。小規模事業者から相談を受け、希望する事

業者へ計画策定・申請支援を行っている。

③損害保険への加入促進

小規模事業者に対する火災や地震など財産のリスクをはじめとして、経営、休業、自動車、労災事故、賠償責任などのリスクに備える各種の損害保険等について、全国商工会連合会、岩手県商工会連合会、岩手県火災共済協同組合等と連携し、普及・加入促進を行っている。

④災害時における会員被災状況の収集

これまで、東日本大震災をはじめとした台風等の自然災害の際は、会員事業者の被災状況について情報を収集し、岩手県商工会連合会及び一戸町へ報告している。

⑤感染症対策

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により影響を受けた事業者に対する相談窓口を開設し、各種支援施策の情報提供及び各種給付金、支援金、及び補助金等の申請支援、及び売上減少に対する経営支援を行っている。

II 課題

小規模事業者の防災対策への支援における課題は、以下のとおりである。

①事業者BCPの策定推進強化

事業者BCPの策定をはじめとする防災・減災対策に関する町全体の取組状況は、いまだ普及・啓発段階にあり、事業者独自の策定の動きやこれらを支援する商工会の取組も本格化していないことから、発災時に備え、小規模事業者に対する支援を強化する必要がある。

事業者に影響を与えかねない災害として、自然災害とともに、感染症に対しても対策を講じる必要がある。大半の事業者は基本的な感染防止対策について実施しているが、感染症まん延などの緊急事態に遭遇した場合に備え、これらのリスクも踏まえたBCP計画策定を推進する必要がある。

②策定支援スキル習得の課題

職員の事業者BCP策定に関する支援スキル習得が課題である。支援スキル習得に向け、各種セミナー・研修の受講による知識習得、専門知識やノウハウを持つ専門家や損害保険会社等との連携が必要である。

③災害応急対策に関する町と商工会の連携体制の構築

現状では、それぞれ事前対策や応急対策を行うことになっており、両者の連携・協力体制が具体化されていない。発災時に、速やかな応急対策を講じるために、両者の連携・協力体制を具体化する必要がある。

Ⅲ 目標

一戸町地域防災計画に基づき、今にでも発生し得る大規模自然災害等に備え、中小企業等に対する事前防災や事後の素早い復旧等の対策について、町、商工会が一つになって取り組むこととする。特に、町内小規模事業者に対して「いかなる大規模災害が発生しても、経済活動を機能不全に陥らせない」ことを目標とした事業継続力強化のために次の取組を行う。

①町内小規模事業者へのBCP策定支援の強化

町内小規模事業者に災害リスクを認識させ、事前対策の必要性を周知するとともに、専門家や損保会社等との連携による個別支援の体制を構築し、小規模事業者のBCP策定支援を強化する。

②被害の把握・報告ルート の 確立

発災時における連絡体制を円滑に行うため、町、当会との間における被害情報報告ルートを構築する。

③速やかな応急・復興支援策を行うための連携体制の確立

発災後速やかな応急対策や復興支援策を行えるよう、組織内における体制、関係機関との連携体制を平時から構築する。

事業継続力強化支援事業の内容及び実施期間

(1) 事業継続力強化支援事業の実施期間（令和5年4月1日～令和10年3月31日）

(2) 事業継続力強化支援事業の内容

一戸町商工会と一戸町の役割分担、体制を整理し、連携して以下の事業を実施する。

<1. 事前の対策>

一戸町地域防災計画及び一戸町新型インフルエンザ等対策行動計画に基づき、本計画との整合性を整理し、発災時に混乱なく応急対策等に取り組めるようにする。

1) 小規模事業者に対する災害リスクの周知

町内小規模事業者に対するBCP策定の必要性についての普及・啓発を目的として、年度事業計画に次の事業毎に目標数を定め、それぞれの目標達成に向けた取組を行うこととする。

①ハザードマップによるリスクの周知

経営指導員等が巡回指導時に一戸町防災マップ等を用いながら、事業所立地場所の自然災害等のリスク及びその影響を軽減するための取組や対策（事業休業への備え、水災補償等の損害保険・共済加入等）について説明する。

②広報等による啓発活動

商工会報や町広報、ホームページ等において、国の施策の紹介や、リスク対策の必要性、損害保険の概要、事業者BCPに積極的に取り組む小規模事業者の紹介等を行う。

③事業者BCP策定に関する支援

小規模事業者に対し、事業者BCP（即時に取り組み可能な簡易的なものを含む）の策定による実効性のある取組の推進や、効果的な訓練等について指導及び助言を行う。

また、事業継続の取組に関する専門家を招き、小規模事業者に対する普及啓発セミナーや行政の施策の紹介、損害保険の紹介等を実施する。

④新型インフルエンザ等感染症に関する周知

新型インフルエンザ等感染症は、いつでも、どこでも発生する可能性があり、感染の状況も日々変化するため、事業者には常に最新の正しい情報を入手し、デマに惑わされることなく、冷静に対応することを周知する。

また、業種別ガイドラインに基づき、感染拡大防止策等について事業者への周知を行うとともに、マスクや消毒液等の一定量の備蓄、オフィス内換気設備の設置、ITやテレワーク環境を整備するための情報や支援策等を提供する等、今後の感染症対策に繋がる支援を実施する。

【商工会が取り扱っているリスク軽減のための損害保険等】

財産リスク	●火災・自然災害、地震・噴火等に伴う建物・什器の損害補償 ●自動車運行に伴う事故の賠償補償
休業リスク	●事業主・従業員の休業所得補償 ●災害に伴う営業損失補償
経営リスク	●取引先の倒産に伴う債権回収困難になった場合への備え ●事業主・家族・従業員のけが、病気、がん等への備え ●廃業・退職後の生活資金積立 ●従業員の退職金積立
自動車のリスク	●自動車運行に伴う事故の賠償補償
労災事故のリスク	●業務災害・ハラスメント等の管理者賠償責任補償

2) 商工会自身の事業継続計画の作成

- ・(別添参照)「一戸町商工会危機管理マニュアル」(令和5年3月作成)。

3) 関係団体等との連携

職員向け研修会をはじめBCP策定セミナーや個別支援について、連携する損保会社等に専門家派遣を依頼し協力を求める。また、関係機関への普及啓発ポスターの掲示やリーフレット等の備え付けを依頼する。

4) フォローアップ

町内小規模事業者のBCP策定の取組み状況を把握、毎年度、策定の有無・内容等についてデータベース化するとともに、計画更新が的確に行われているかどうかフォローアップを行う。

また、当会と町で定期的に会議を開催し、状況確認や改善点等について協議する。

5) 当該計画に係る訓練の実施

自然災害(令和4年8月集中豪雨及び平成23年東日本大震災クラス)が発生したと仮定し、町との連絡ルートの確認等を行う。また、必要に応じて訓練を実施する。

< 2. 発災後の対策 >

災害発災時には、人命救助を第一として、その上で次の手順で地区内の被害状況を把握し、応急対応方針の決定をはじめ、関係機関への連絡等の対策を進めることとする。

1) 応急対策の実施可否の確認

①発災後3時間以内に職員の安否を報告する

町の防災対策マニュアル及び当会の危機管理マニュアルに従い、それぞれ安否確認を行う。

安否確認の際には、(1)本人・家族の被災状況、(2)近隣の家屋や道路に関する大まかな被害状況、(3)出勤できる状態かどうかについても、できるだけ情報を集めることとする。

【各団体の安否確認の対象と目標時間】

団体名	安否確認の対象と目標時間
一戸町商工観光課	【職員】 発災後 1 時間以内に緊急連絡網（携帯電話）にて確認
一戸町商工会	【職員】 発災後 1 時間以内にLINE グループ機能等にて確認 【正副会長】 3 時間以内に携帯電話・Eメールにて確認 【役員】 1 日以内に携帯電話にて確認 【会員】 5 日以内に会員安否を確認

※ SNS 等を利用した安否確認や大まかな被害状況（家屋被害や道路状況等）等を町と商工会で共有する。

②安否確認等の結果の共有と関係機関等への連絡

発災後 3 時間以内には、町、当会間で安否確認結果や大まかな被害状況等を共有する。

【安否確認結果の連絡窓口】

団体名	安否確認結果の連絡窓口	
	第 1 順位	第 2 順位
一戸町商工観光課	課長	課長補佐
一戸町商工会	事務局長	上席の経営指導員

③新型インフルエンザ等の感染症発生時の対応

国内感染者発生後には、職員の体調確認を行うとともに、事業所の消毒、職員の手洗い・うがい等の徹底を行う。感染症流行や新型インフルエンザ等対策特別措置法第 32 条に基づき、政府による「緊急事態宣言」が出た場合は、一戸町における感染症対策本部設置に基づき当会による感染症対策を行う。

2) 応急対策の方針決定

- ・ 当会と町との間で、被害状況や被害規模に応じた応急対策の方針を決める。

（豪雨における例）

職員自身の目視で命の危険を感じる降雨状況の場合は、出勤をせず、職員自身が進まず安全確保をし、警報解除後に出勤する。等。

- ・ 職員全員が被災する等により応急対策ができない場合の役割分担を決める。

- ・ 大まかな被害状況を確認し、1 日以内に情報共有する。

●被害規模の目安

被害規模	被害状況
大規模な被害がある	<ul style="list-style-type: none"> ・地区内 10%程度の事業所で、「瓦が飛ぶ」、「窓ガラスが割れる」等、比較的軽微な被害が発生している。 ・地区内 1 %程度の事業所で、「床上浸水」、「建物の全壊半壊」等、大きな被害が発生している。 ・被害が見込まれる地域において連絡が取れない、もしくは、交通網が遮断されており、確認ができない。
被害がある	<ul style="list-style-type: none"> ・地区内 1 %程度の事業所で、「瓦が飛ぶ」、「窓ガラスが割れる」等、比較的軽微な被害が発生している。 ・地区内 0.1%程度の事業所で、「床上浸水」、「建物の全壊・半壊」等、大きな被害が発生している。
ほぼ被害はない	<ul style="list-style-type: none"> ・目立った被害の情報がない。

※なお、連絡が取れない区域については、大規模な被害が生じているものとする。

●被害情報等の共有間隔

発災後～1週間	1日に2回共有する
1週間～1ヶ月	1日に1回共有する
1ヶ月～3ヶ月	1週間に1回共有する
3ヶ月以降	1月に1回共有する

< 3. 発災時における指示命令系統・連絡体制 >

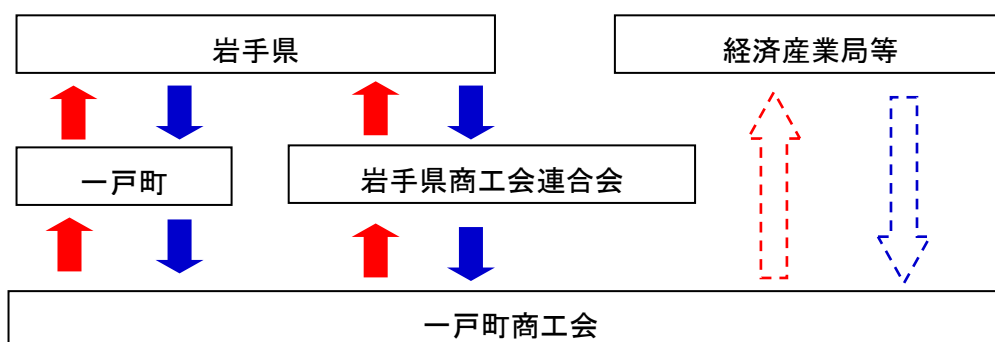
発災時に町内事業者の被害状況の報告及び指揮命令の仕組みを構築し、二次被害を防止するため、被災地域での活動を行うことについての決定、被害の確認方法・被害額の算定方法、共有した情報の県等への報告方法について、あらかじめ確認しておく。

1) 指示命令系統・連絡体制図

自然災害等発生時に、地区内の小規模事業者の被害情報の迅速な報告及び指揮命令を円滑に行うことができる仕組みを構築する。

なお、感染症流行の場合、国や県等からの情報や方針に基づき、当会と町が共有した情報を岩手県の指定する方法にて当会又は町より岩手県へ報告する。

【連絡体制図】



2) 共有した情報の報告方法

当会と町が共有した情報を、当会は岩手県商工会連合会へ、町は岩手県へ報告する。なお、当会が岩手県商工会連合会へ報告する手段として、岩手県商工会連合会作成の緊急時連絡先にメールで報告するとともに、商工会災害状況報告システムを活用する。

< 4. 応急対策時の地区内小規模事業者に対する支援 >

1) 相談窓口の開設

当会は町と協議の上、安全性が確認された場所において相談窓口を開設する。併せて、国・県からの相談窓口設置に関し特別の要請を受けた場合は、これに従うものとする。

また、感染症の場合、事業活動に影響を受ける、または、その恐れがある小規模事業者を対象とした支援策相談窓口の開設等を行う。

2) 被害状況の把握と被災事業者施策の周知

地区内小規模事業者等の被害状況の詳細を確認するとともに、応急時に有効な被災事業者施策や感染症対策の施策（国・県・町等の施策）について、巡回訪問をはじめとして、会報、ホームページ、説明会等により町内小規模事業者等へ周知する。

< 5. 地区内小規模事業者に対する復興支援 >

1) 岩手県及び町の方針に従って、復旧・復興支援の方針を決め、被災小規模事業者に対し支援を行う。

2) 被害規模が大きく、被災地の職員だけでは対応が困難な場合には、他の地域からの応援派遣等を岩手県商工会連合会等に相談する。

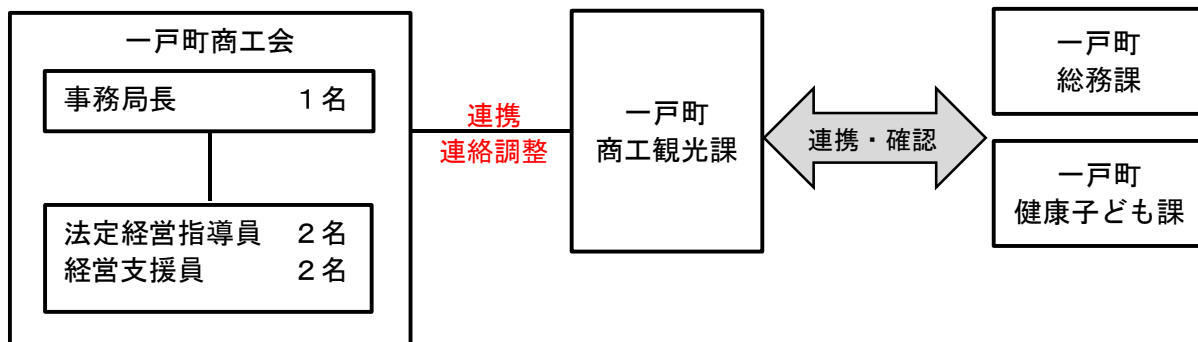
(別表2)

事業継続力強化支援事業の実施体制

事業継続力強化支援事業の実施体制

(令和5年4月現在)

(1) 実施体制 (商工会又は商工会議所の事業継続力強化支援事業実施に係る体制/関係市町村の事業継続力強化支援事業実施に係る体制/商工会又は商工会議所と関係市町村の共同体制/経営指導員の関与体制 等)



(2) 商工会及び商工会議所による小規模事業者の支援に関する法律第5条第5項に規定する経営指導員による情報の提供及び助言に係る実施体制

①当該経営指導員の氏名、連絡先

・経営指導員：田上 篤

〃 : 小倉 由記

(連絡先は後述 (3) ①参照)

②当該経営指導員による情報の提供及び助言 (手段、頻度 等)

商工会の法定経営指導員を中心として、本計画の具体的な取組みや実行を行うものとし、随時、小規模事業者に対する災害リスクの周知をはじめ事業者BCPの策定支援等の進捗状況を管理し、四半期ごとに進捗状況を共有する。また、他の職員に対し、指導及び助言を行いながら、目標達成に向けた進捗管理、事業の評価・見直しを実施する。

(3) 商工会/商工会議所、関係市町村連絡先

①商工会/商工会議所

〒028-5312 岩手県二戸郡一戸町一戸字砂森 119-3

一戸町商工会

TEL : 0195-33-2354 / FAX:0195-33-2373

Mail : ichinohe@shokokai.com

②関係市町村

〒028-5311 岩手県二戸郡一戸町高善寺字大川鉢 24-9

一戸町 商工観光課

TEL : 0195-33-2111 / FAX:0195-33-3770

Mail : shoko-kanko@town.ichinohe.iwate.jp

(別表3)

事業継続力強化支援事業の実施に必要な資金の額及びその調達方法

(単位：千円)

	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
必要な資金の額	150	200	200	200	200
・ 専門家派遣費	30	30	30	30	30
・ セミナー開催費	30	30	30	30	30
・ パンフ、チラシ作成費	40	40	40	40	40
・ 防災、感染症対策費	50	100	100	100	100

(備考) 必要な資金の額については、見込み額を記載すること。

調達方法
会費収入、一戸町補助金、岩手県補助金、手数料収入等

(備考) 調達方法については、想定される調達方法を記載すること。

(別表 4)

事業継続力強化支援計画を共同して作成する商工会又は商工会議所及び関係市町村以外の者を連携して事業継続力強化支援事業を実施する者とする場合の連携に関する事項

連携して事業を実施する者の氏名又は名称及び住所 並びに法人にあつては、その代表者の氏名
連携者なし
連携して実施する事業の内容
連携者なし
連携して事業を実施する者の役割
連携者なし
連携体制図等
連携者なし